

すなお

令和3年1月号



明治二九年二月四日

新年明けましておめでとうございます。昨年はそれぞれが一生懸命につとめていただき、誠にありがとうございました。本年もよろしくおねがいします。

今年は「何がなんでも」という思いで通り切りたいと思います。昨年は皆さん方と共に新型コロナの影響を受けて本当に何も出来ない、動けない日々を過ごしました。本年の元旦祭にしてもそうですし、年末の御用にしてもそうでした。

昨年末は例年の教会神殿掃除も同じように出来ず、ひのきしん当日は私を含めて五名でつとめ約一時間で終了しました。しかし、例年通りの掃除をその日にしていたら倍の二時間はかかったと思います。それはいつも半分の人数だったからです。この状況が想像出来ていたので私なりに数日前より対策を案しました。その三つとは一、例年通りの掃除を時間がかかる場合でも変わらずする。二、例年と状況が違うのだから簡潔にする。三、例年通りの掃除をするが方法を変更する。という三つが心に浮かびました。一つの方法は普通ですし、参加者は大変です。二だと参加者は普段通りの時間で終わりますが、神様に對して申し訳ない。

(次ページへ)

おやのことば

存命々々と言ふであろう。
存命でありやこそ日々働き
きといふ。働き一つありや
こそ又一つ道といふ。存
命一つとんと計り難ない存
道なれど、又日々世界映
す事情聞き分け。

会長

教会ニュース

訃報

先月の27日によく岐阜県在住の竹原美恵子さん（享年75歳）が出直しされました。コロナ感染拡大の影響で身近な親族のみでの葬儀会葬となりました。

元旦祭御供物御礼

元旦祭をつとめるにあたり、大勢の皆さんよりお供え物を送って頂いたり届けて頂いたり中にはお金を預かり、本当にありがとうございました。参拝者は少人数ではありましたが、勇みに勇んでつとめさせて頂きました。忘れ得ない元旦祭でした。



すなお (立教184年1月号)

通 巻
發行所

No.726
天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10

0898-23-5004
FAX 0898-23-5123

責 任 者

発行日 2021.1.16
二宮英治

中和大教会創立130周年記念祭 執行 令和3年10月10日(日)

周年祭への御供報告 総額761,548円 (令和3年1月14日現在)

華のある人～深谷善太郎著「だけど有難い」～より

～前略～

その横澤さんが、こう言うのです。

「華のある人というのとは、まず何より『陽気な人』である。『明るい人』である。暗い人には華はない。また、どんなに苦労していても、苦労が顔に出る人には華はない。役者でも、苦労が顔に出ると華はないといいんです。あとは下り坂です」

また、こうも言っていました。

「華のある人というのとは、人を喜ばせたいという気持ちを持っている人である」

たとえば、落語家の初代林家三平師匠は、明るく陽気で、人を喜ばせる心が人一倍あったそうです。

～中略～

この話を聞いて思いました。そんな話なら、わざわざ横澤さんを取材しに行かなくても、お道の人こそ「華のある人」のはずです。親神様を信じているのですから、当然、明るく陽気な心になれますね。そして、お道では「人をたすける」ことを学びますから、当然、人に喜んでもらいたい、たすかってもらいたいという心を持っているのです。

では、お道を信仰してさえいれば良いのか。そうではありませんね。教えを実行しないと、人の心も物も寄るような魅力のある人にはなれません。「信じているが、にをいがけができない」「人をたすけるなんて、おこがましい」と言う人がいます。しかし、それは考え方によっては、災害や事故のときに、自分がたすかって「ああ良かった。でも、人をたすけるなんて気持ちになれない」と言っているようなものです。

人のことを思いやれない、考えられないというのは、たすかりにくい姿です。犯罪を起こす人々は、たいてい後のこととは考えていません。人の痛みに気がつけば、そんなことはできないのです。

私たちお互いは、教えを実行させていただいて、「あの人がいると、うれしくなるな」「あの人に会って、話が聞きたいな」「あの人の話を聞くと、何か明るい気持ちになれるな」そんな華のある人、魅力ある人を目指したいものです。

今、コロナの感染拡大という時期において普段通りにできないことが一杯あります。だからといって諦めるのか、その中で出来ることはないのか、また新しい発想はないのかと思案を重ね実行していくことが大切なではないでしょうか。また、簡潔に出来ることと決して簡潔にしてはならないことの違いも解らなければならないと思います。今まで、もしかしたら惰性でやってきていたことが分かれば、その一回一回が真剣に取り組むことになるでしょうし、もしかしたらこれが最後の一回になるかもしれないと思えばより真剣になることでしょう。

私達の信仰は決して形ではありません。おつとめをする形が大事なのではありません。おつとめを通して助かりを願い、日々月々の感謝をすることこそが大事なのです。これは日々の通り方においても同様です。まだまだ先を見通せない今日ですが、だからこそ【一日生涯】の信仰信念をもつて通り切らせていただきます。

そして、本年は中和大教会創立百三十周年祭を十月十日に迎えます。こちらもどのような形になつていくか分かりません。でもその節目はやつてきます。どうか、親々の眞実の道あればこそ今日の私達で有ることを思い、心を寄せ一生懸命に通らせていただきましょう。よろしくおねがいします。



初めてのお正月

椿 信代

今年は初めて瀬戸路に帰らない年末年始を過ごしました。自宅で迎える大晦日はあんまり実感がなく、人生初の年越しカウントダウンも楽しみにしていた割にさりと終了…。大量の餅つきもなく、神殿掃除もない!忙しい元旦祭の準備もその後の片付けもない!!となると(しめしめ今年はラッキーだ)と思いました。…というのも、毎年帰省しても教会のひのきしんばかりで、恥ずかしながら渋々やっていたことも多かったからです。

でも今回はふと、「いつもなら今頃お供え物買い出しに行ってたな」「今日は餅つきの日だな」と思い出しては不思議とやりたくなることがあります。体に染み付いた思い出と瀬戸路に思いを馳せながら過ごすお正月でした。

これも年越しの一つの形ですが、いつかまた皆で正月を祝える日が来たらいいなあと思います。その時まで、今年もどうぞ元気でお守りいただけますように。